

# 決算説明会資料

---

2020年度（2021年3月期）

**DOWA**ホールディングス株式会社

2021年5月19日

# 2020年度通期① 概要

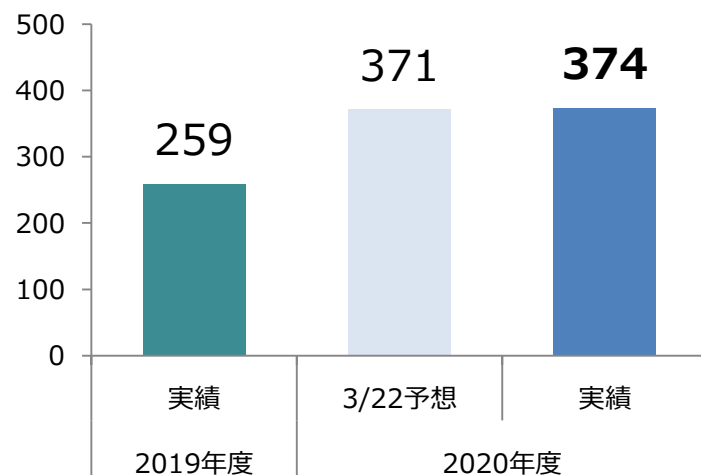
(単位：億円、億円未満切り捨て)

	2019年度 実績 ①	2020年度		比較増減			
		3/22予想 ②	実績 ③	前年比 (③ - ①)		3/22予想比 (③ - ②)	
売上高	4,851	5,828	<b>5,880</b>	1,028	21%	52	1%
営業利益	259	371	<b>374</b>	114	44%	3	1%
経常利益	289	350	<b>372</b>	82	28%	22	6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	173	157	<b>218</b>	44	25%	61	39%

✓ 2020年度は、前年比で増収・増益を達成

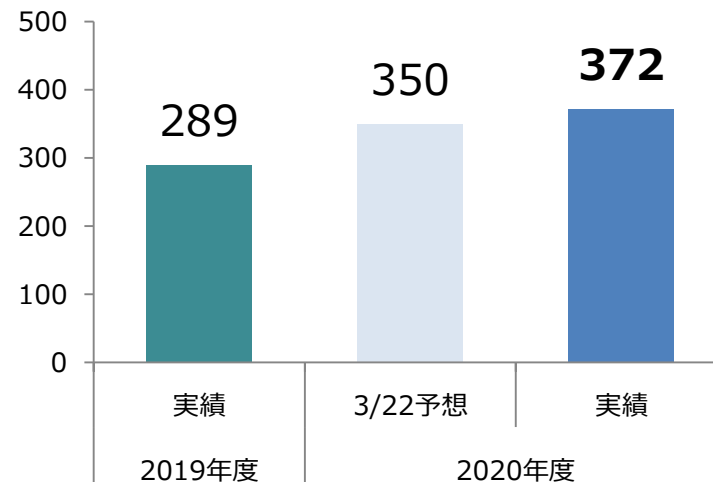
## ■ 営業利益

(単位：億円)

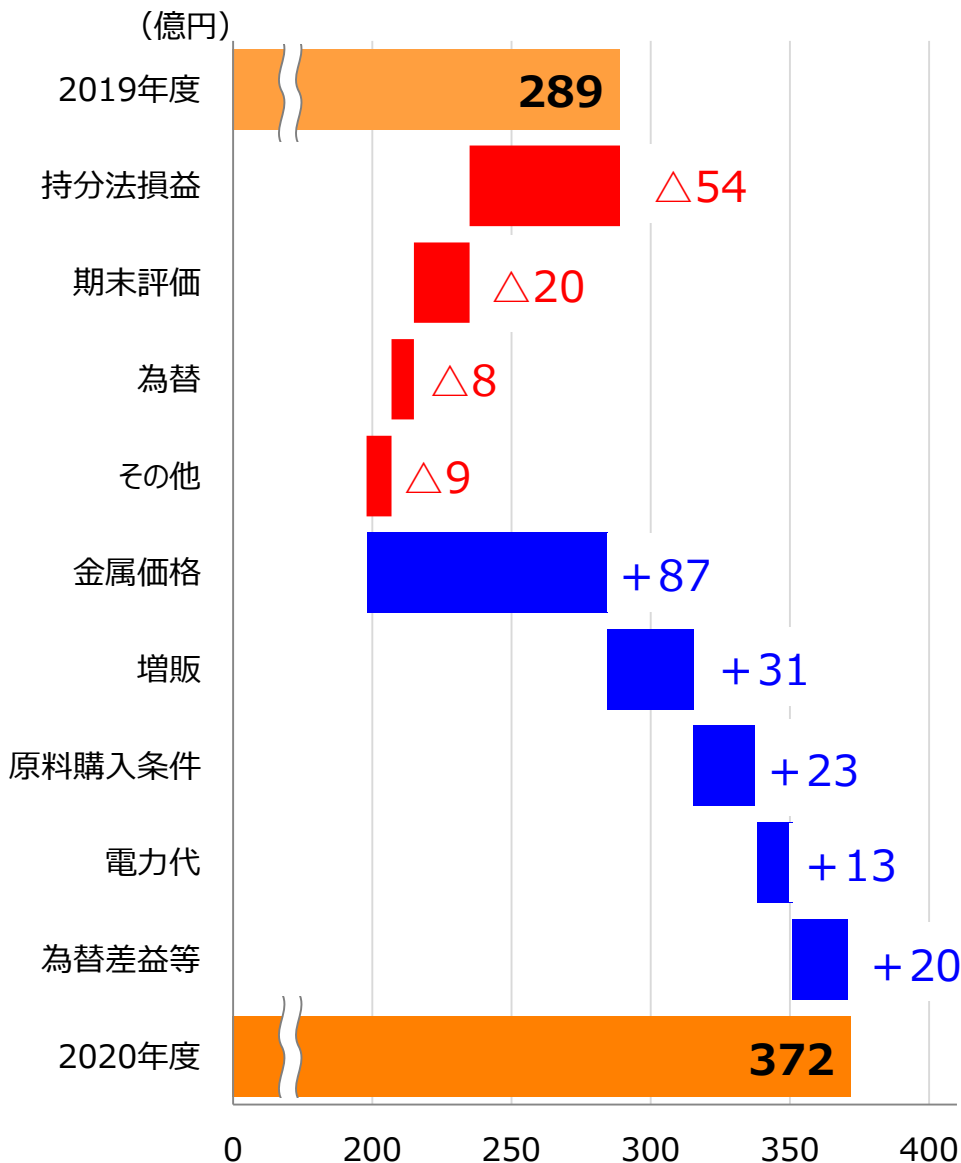


## ■ 経常利益

(単位：億円)



# 2020年度通期② 経常利益の増減分析



## 主な増減要因

- ・持分法適用関連会社（藤田観光）の収益が減少
- ・相場上昇に伴う期末評価損の発生
- ・通期平均の為替が前年比で円高となったことによる収入減
- ・減価償却費の増加 など
- ・貴金属、ベースメタルとも通期平均価格は前年比で上昇
- ・自動車関連製品は上期に需要が減少も下期に回復、国内廃棄物処理や太陽光パネル向け銀粉などは総じて堅調
- ・亜鉛原料の購入条件（T/C）が改善
- ・電力価格は低下
- ・為替差益 など

**前年比82億円の増益**

独自の事業ポートフォリオによる強みを発揮し、コロナ禍においても増益を達成

# 2020年度通期③ セグメント別損益

(単位：億円、億円未満切り捨て)

	2019年度 実績			2020年度 実績			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環 境 ・ リ サ イ ク ル	1,121	72	69	<b>1,176</b>	<b>84</b>	<b>86</b>	54	12	17
製 錬	2,272	100	122	<b>2,820</b>	<b>203</b>	<b>259</b>	547	103	137
電 子 材 料	982	10	24	<b>1,512</b>	<b>24</b>	<b>36</b>	530	14	12
金 属 加 工	823	51	51	<b>778</b>	<b>43</b>	<b>46</b>	△ 45	△ 7	△ 5
熱 処 理	279	12	12	<b>231</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	△ 48	△ 4	△ 4
その他、全社・消去	△ 628	13	10	△ <b>639</b>	<b>10</b>	△ <b>65</b>	△ 10	△ 3	△ 75
合 計	4,851	259	289	<b>5,880</b>	<b>374</b>	<b>372</b>	1,028	114	82

# 2021年度通期① 業績予想

(単位：億円、億円未満切り捨て)

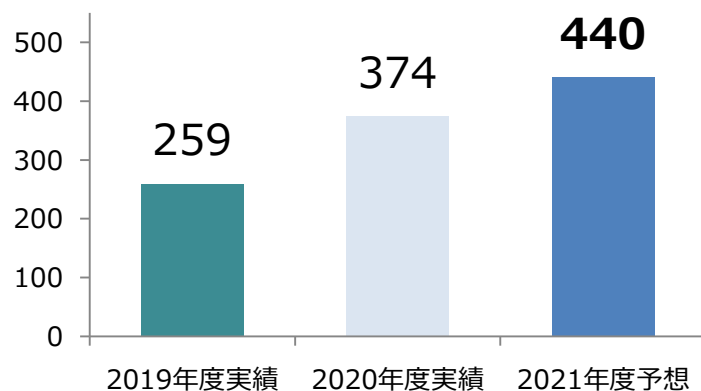
	2020年度 実績	2021年度 予想	増減	
売上高	5,880	<b>6,400</b>	519	9%
営業利益	374	<b>440</b>	65	17%
経常利益	372	<b>500</b>	128	34%
親会社株主に帰属する 当期純利益	218	<b>300</b>	81	37%

※2021年度予想には、藤田観光の業績予想を含んでいません。

- ✓ 相場上昇や自動車関連製品の需要回復に加えて、新規製品の量産開始などこれまでの投資効果の発揮により、引き続き、増収・増益を見込む

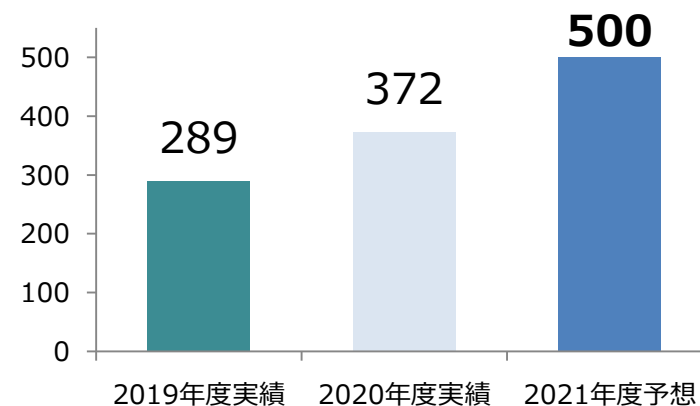
## 営業利益

(単位：億円)

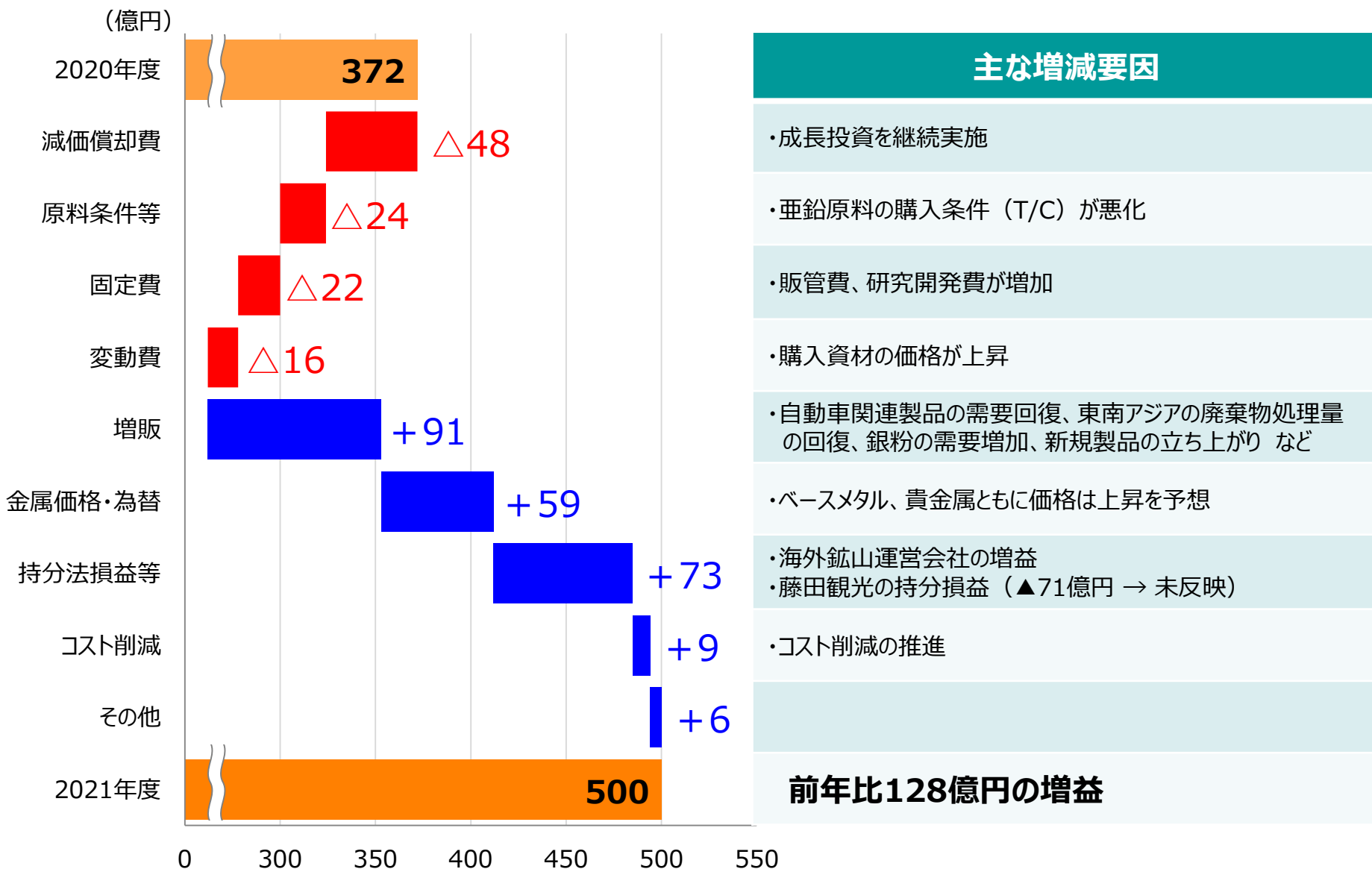


## 経常利益

(単位：億円)



# 2021年度通期② 経常利益の増減分析



各事業での需要の回復・増加に加えて、堅調な金属価格を背景に大幅増益

# 2021年度通期③ セグメント別損益

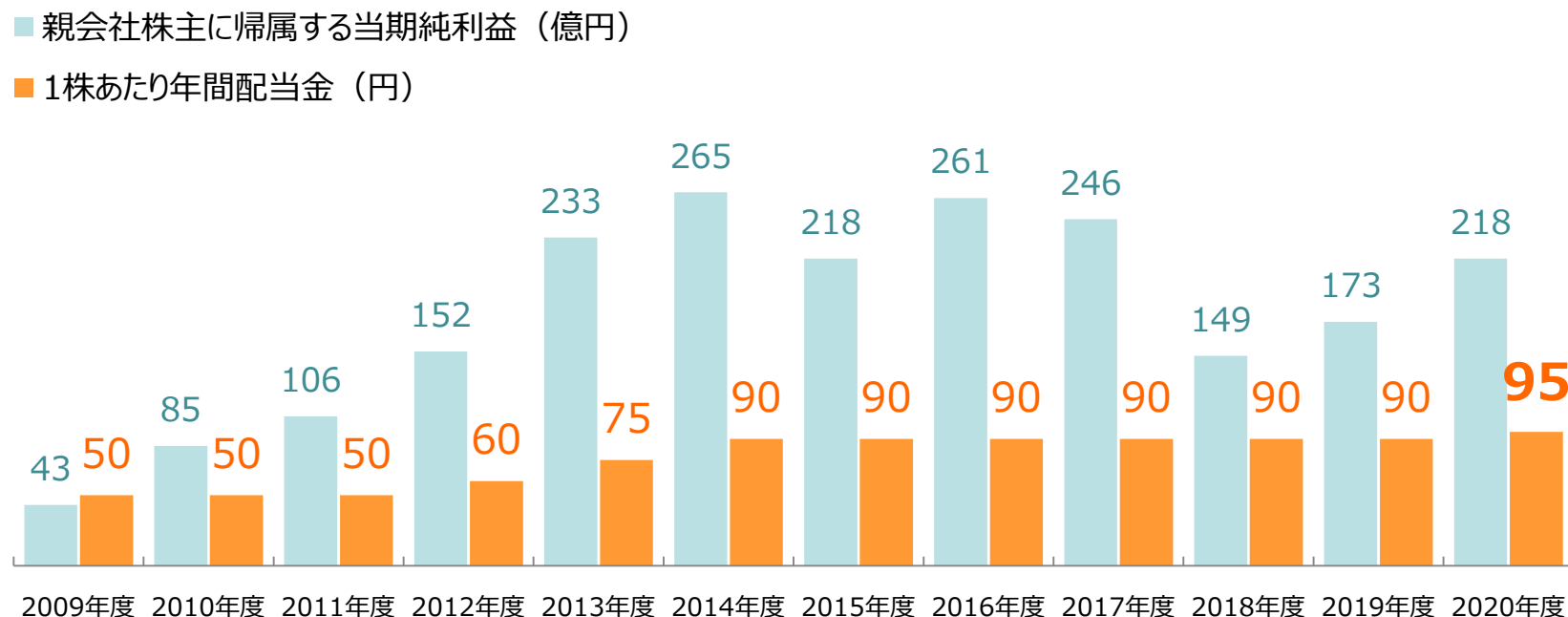
(単位：億円、億円未満切り捨て)

	2020年度 実績			2021年度 予想			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環 境 ・ リ サ イ ク ル	1,176	84	86	<b>1,290</b>	<b>80</b>	<b>82</b>	113	△ 4	△ 4
製 錬	2,820	203	259	<b>3,085</b>	<b>227</b>	<b>282</b>	264	23	22
電 子 材 料	1,512	24	36	<b>1,525</b>	<b>43</b>	<b>51</b>	12	18	14
金 属 加 工	778	43	46	<b>834</b>	<b>55</b>	<b>56</b>	55	11	9
熱 処 理	231	7	8	<b>282</b>	<b>25</b>	<b>23</b>	50	17	14
その他、全社・消去	△ 639	10	△ 65	<b>△ 616</b>	<b>10</b>	<b>6</b>	23	△ 0	71
合 計	5,880	374	372	<b>6,400</b>	<b>440</b>	<b>500</b>	519	65	128

# 株主還元

当社は、安定した配当の継続を基本に、企業体質強化と将来の事業展開に備えた内部留保の充実を勘案のうえ、業績に応じた配当を行うことを方針としております。あわせて、中期計画2020の期間においては、1株当たり90円の安定した年間配当を維持したうえで、利益水準に応じた増配を目指しております。

上記を踏まえ、当期の年間配当につきましては、業績および今後の資金需要等を勘案した結果、前期より5円の増配となる1株当たり95円といたしました。



※ 2009年度から2016年度の1株あたり年間配当金は、株式併合後の金額に調整しています。



# 参考 2021年度通期 前提条件、感応度

感応度（営業利益/2021年度）

	前提条件	変動幅	感応度
為替	108.0 円/\$	±1 円/\$	6.0 億円
銅	8,500 \$/t	±100 \$/t	0.4 億円
亜鉛	2,500 \$/t	±100 \$/t	4.2 億円
インジウム	180 \$/kg	±10 \$/kg	0.6 億円

※為替感応度の内訳は、製錬部門4.8億円、電子材料部門1.2億円です。

## 為替、金属価格比較

	2020年度			2021年度			(参考)
	上期平均	下期平均	通期平均	上期前提	下期前提	通期平均	4月平均
為替：(¥/\$)	106.9	105.2	106.1	108.0	108.0	108.0	109.1
銅：(\$/t)	5,931	7,826	6,879	8,500	8,500	8,500	9,336
亜鉛：(\$/t)	2,150	2,689	2,419	2,500	2,500	2,500	2,827
インジウム：(\$/kg)	147	185	166	180	180	180	201

感応度については、現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の影響額は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

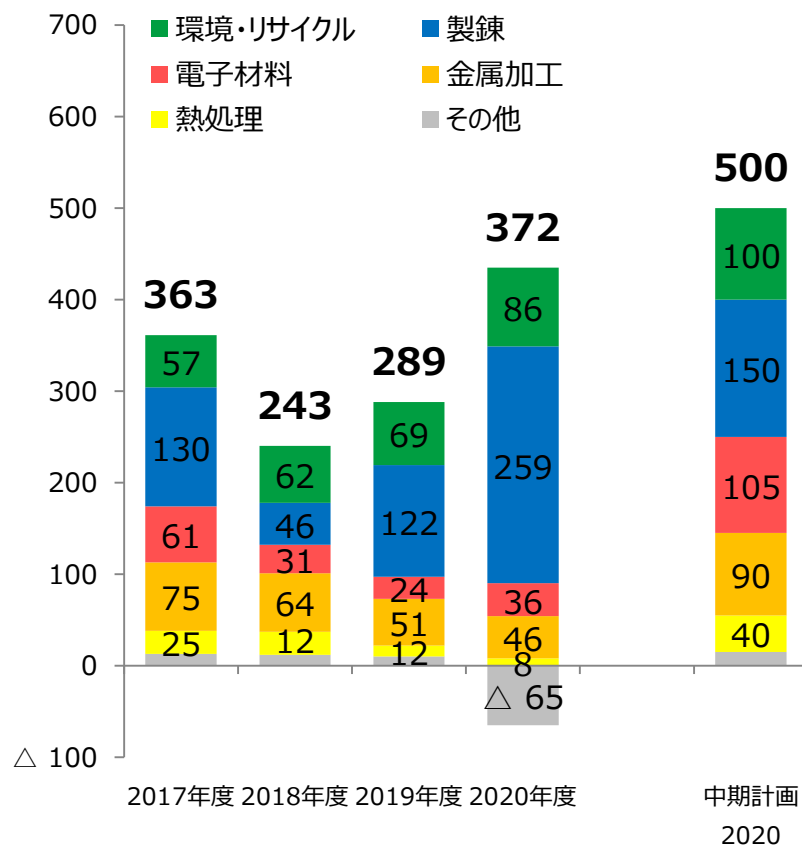
# 中期計画2020レビュー 財務面の進捗状況

---

# 経常利益、ROA・ROE

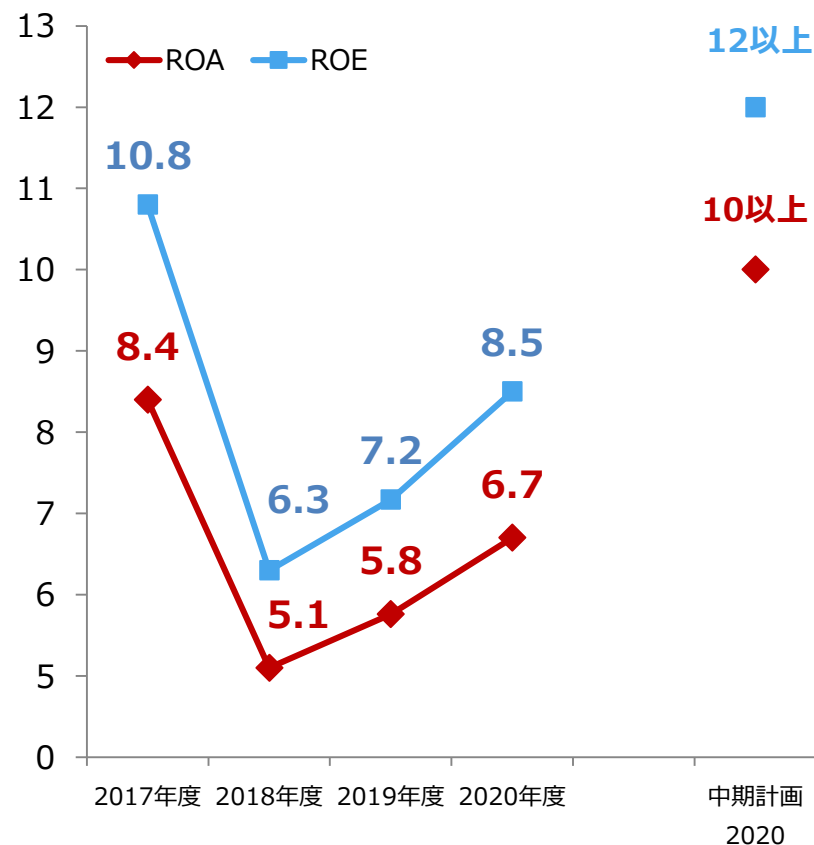
## 経常利益

(億円)



## ROA・ROE

(%)

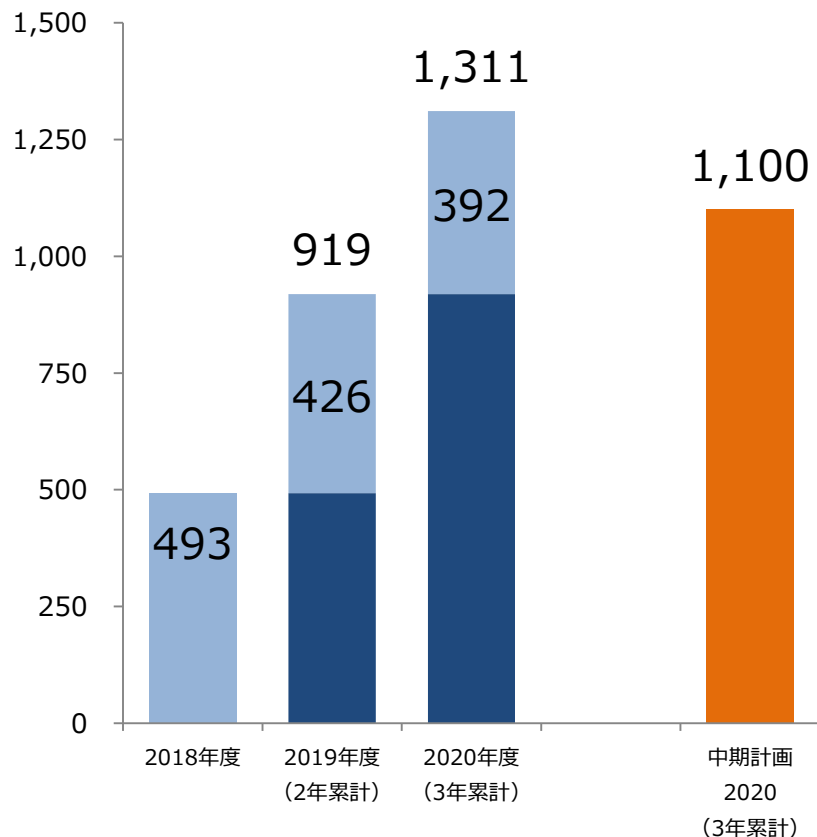


投資案件が事業化し利益水準が向上、経営指標も2期連続で改善

# 投融资、研究開発費

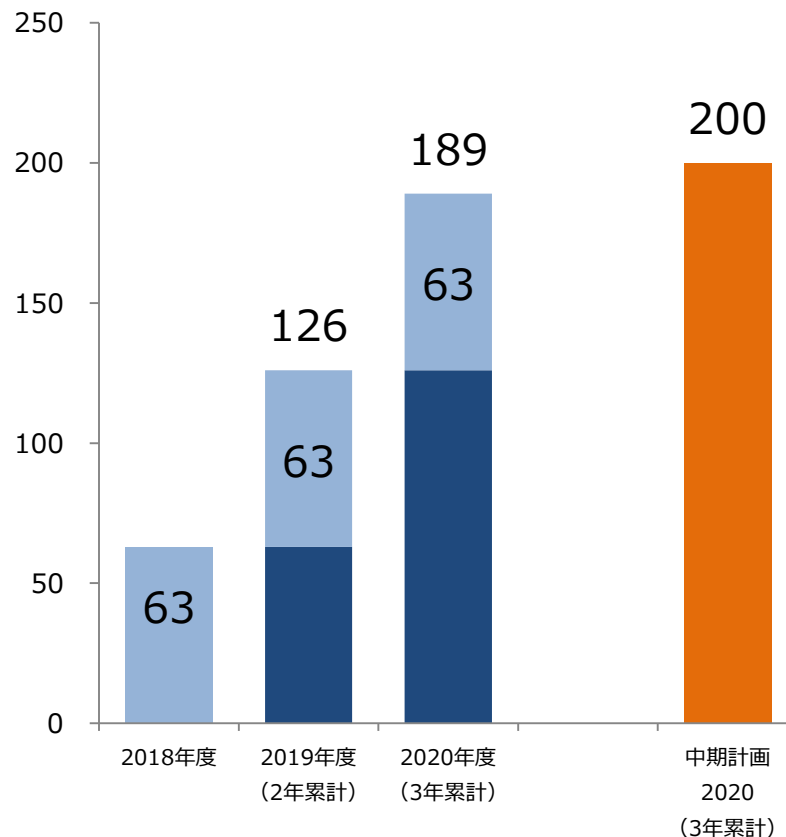
## 投融资

(億円)



## 研究開発費

(億円)



追加案件等により投融资は対中期計画比で増加、研究開発費は計画並み

# 各セグメントにおける 施策の進捗状況

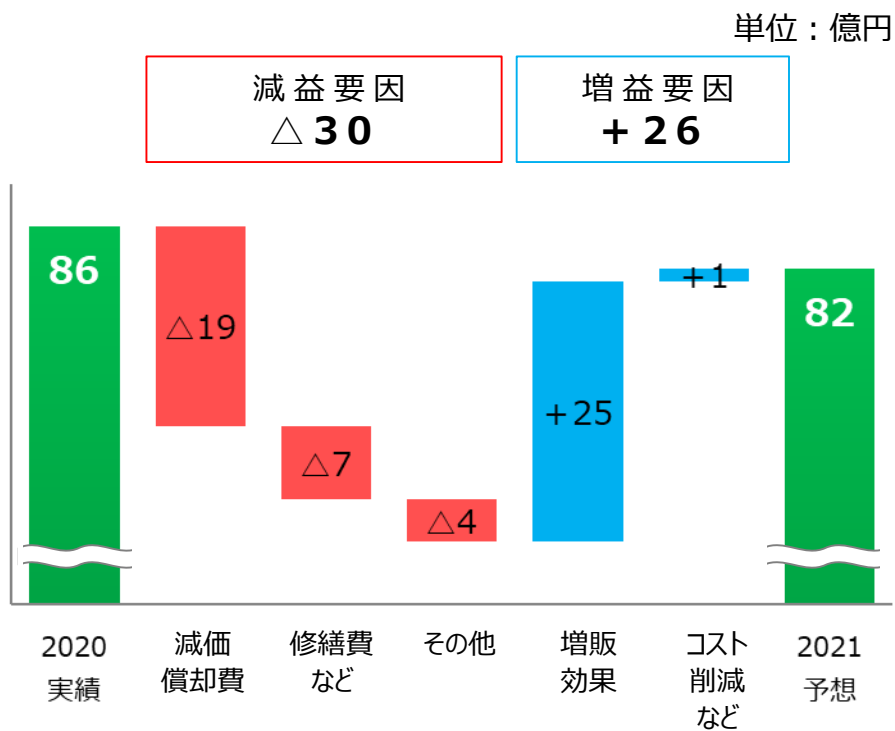
---

# 環境・リサイクル① 事業概況

## 事業環境（2021年度）

- ・廃棄物：国内・東南アジアともに発生堅調
- ・自動車シュレッダーダスト、廃家電ともに集荷環境は堅調

## 経常利益（前年比）



## 《主要製品の数量動向》

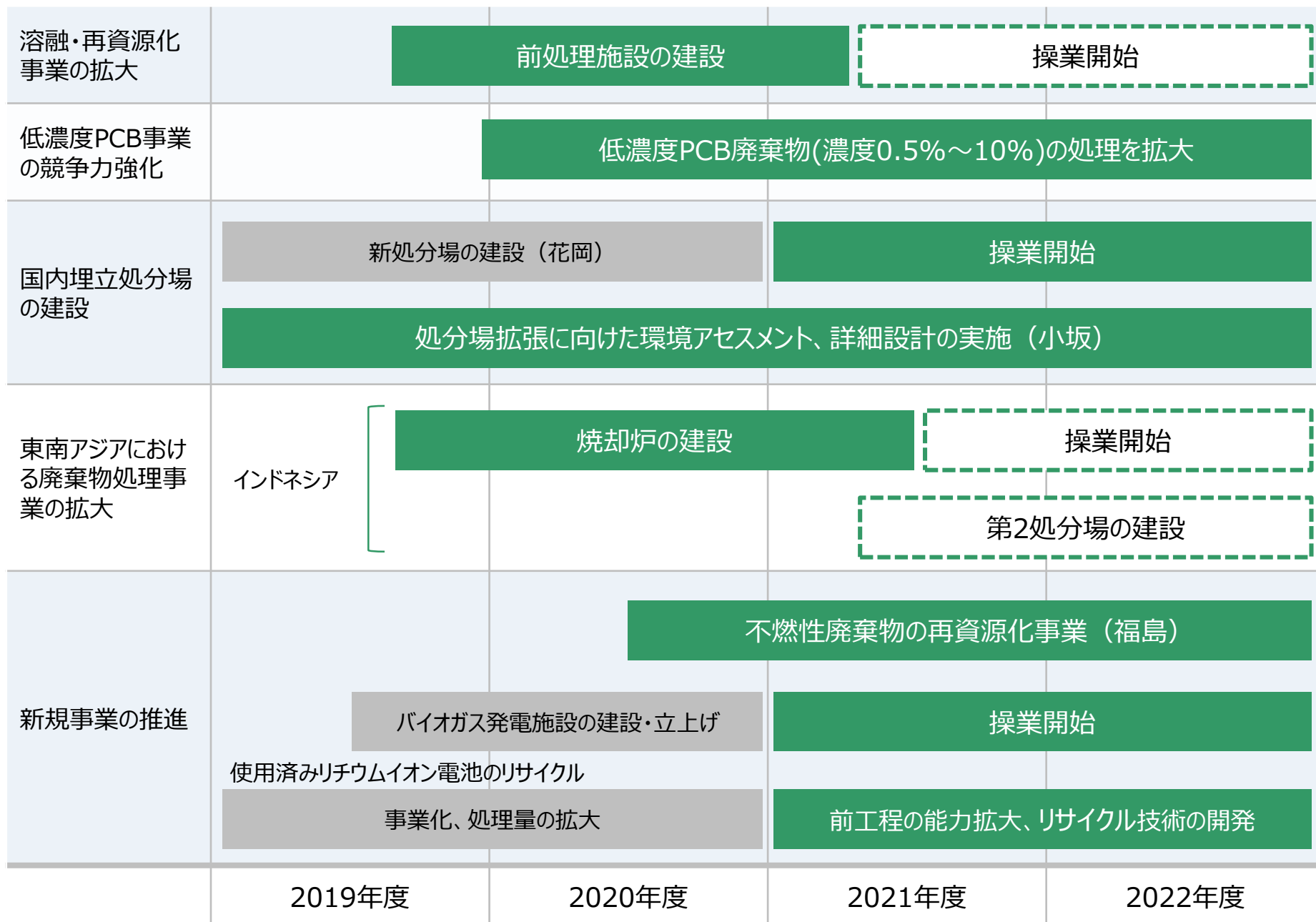
(2020年度上期 = 100)

	2020年度		2021年度	
	上期	下期	上期	下期
国内廃棄物中間処理量	100	99	<b>103</b>	<b>103</b>
溶融・再資源化処理量	100	99	<b>109</b>	<b>119</b>
東南アジア廃棄物処理額	100	95	<b>125</b>	<b>138</b>
家電リサイクル処理台数	100	102	<b>106</b>	<b>104</b>

## 2021年度の概要

- ・国内外の投資が完工、減価償却費が増加
- ・国内廃棄物の中間処理量は堅調
- ・溶融・再資源化の処理量は増加
- ・東南アジアは廃棄物発生量の回復を見込む
- ・家電リサイクルは、解体・選別拠点の高水準の稼働を継続

# 環境・リサイクル② 中期計画における主要施策の進捗状況



## ■ 溶融・再資源化事業の拡大

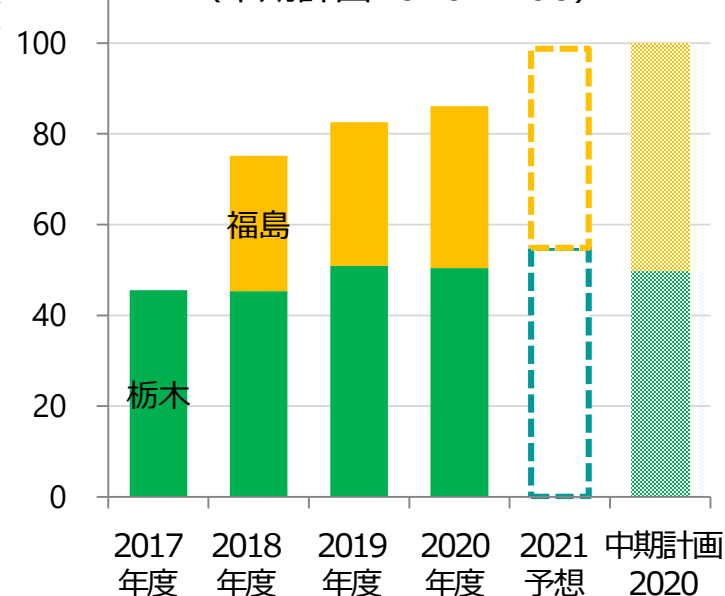
- ・リサイクルニーズの高まり、溶融・再資源化処理委託が拡大
- ・再資源化が難しい焼却灰の処理ニーズが増加

前処理施設が2021年6月に稼働を開始予定

- ・塩濃度の高い焼却灰の溶融処理が可能に
- ・減容化などにより溶融工場の処理効率が向上

栃木・福島の両工場の処理量を拡大し需要を取り込む

溶融・再資源化の処理量推移  
(中期計画2020 = 100)



### 溶融・再資源化事業フロー





# 環境・リサイクル④ 東南アジア市場における事業対応力強化

- ・製薬・化学をはじめ様々な産業の製造業が東南アジアに進出、有害廃棄物の発生は増加
- ・有害廃棄物を処理できる企業は限られている

廃棄物処理サービスをさらに拡充し、有害廃棄物の処理ニーズを取り込む

## ■ インドネシア

- ・焼却炉：2021年6月完工、試験操業を実施し8月に本稼働を計画
- ・第2処分場：2021年6月着工予定

## ■ タイ・シンガポール

- ・焼却：有害廃棄物の集荷を拡大し収益性を向上

## ■ ミャンマー

- ・顧客工場は操業停止または稼働率が低下
- 従業員の安全を確保しながら、最低限の操業を継続



インドネシアで建設中の焼却炉

## ■ 食品廃棄物を原料とするバイオガス発電

- ・食品廃棄物を有効活用するニーズが高まる
- ・包装容器などを含む食品廃棄物はリサイクルが難しい



2021年4月よりバイオガス発電施設の操業を開始

- ・包装容器の除去設備を導入し、従来焼却されていた食品廃棄物を原料にした発電が可能

→ 温室効果ガス排出量削減に寄与、地域の安定的な再生可能エネルギー源として貢献



バイオガス発電施設

## ■ 使用済みリチウムイオン電池のリサイクル

- ・廃棄物処理のノウハウや既存設備を活用し、熱処理により安全に不活性化が可能
- ・再資源化ラインで鉄や銅、アルミ、コバルト・ニッケル混合物の回収が可能



- ・今後の需要増加に備えた処理能力の拡大、回収メタルの品質向上を推進

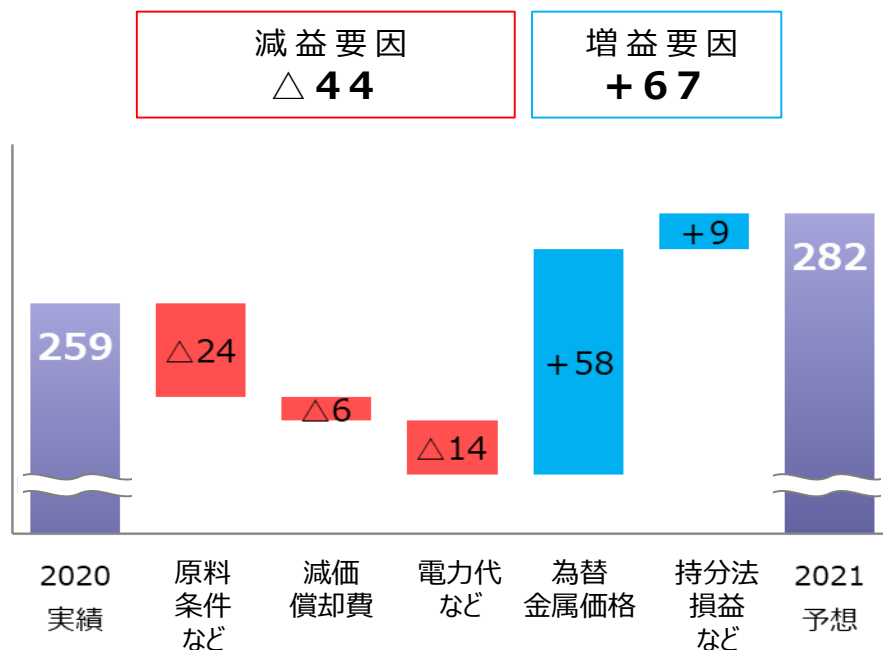
# 製錬① 事業概況

## 事業環境（2021年度）

- ・金属価格：ベースメタル、貴金属とも上昇基調
- ・地金需要：自動車向け需要も回復し、  
総じて堅調な見込み

## 経常利益（前年比）

単位：億円



《主要製品の数量動向》

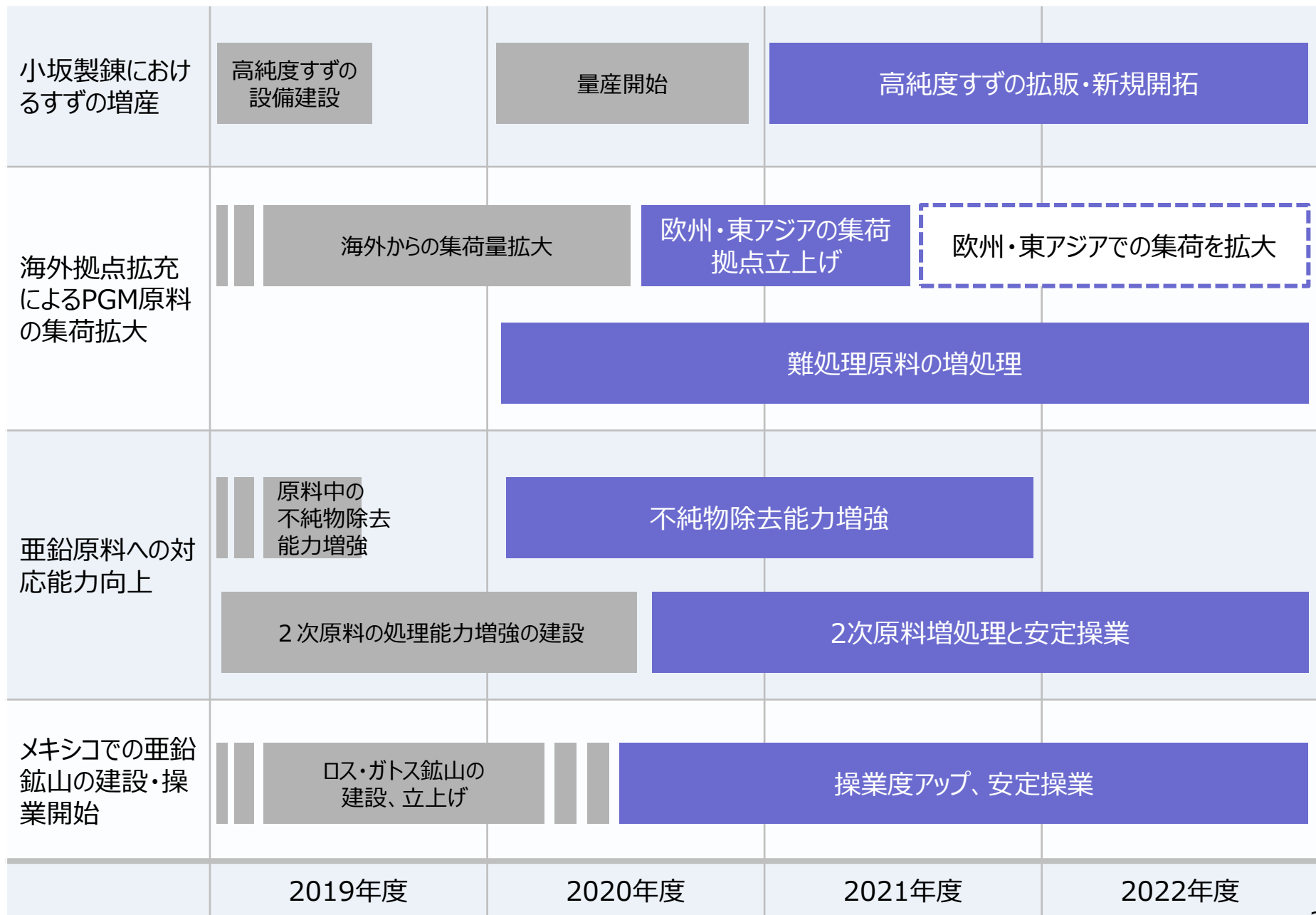
(2020年度上期 = 100)

	2020年度		2021年度	
	上期	下期	上期	下期
銅生産量 (小坂・小名浜)	100	99	<b>94</b>	<b>104</b>
金生産量 (小坂)	100	120	<b>123</b>	<b>144</b>
亜鉛生産量 (秋田)	100	124	<b>107</b>	<b>124</b>

### 2021年度の概要

- ・為替は前年比で円安を想定
- ・亜鉛の原料購入条件は大幅に悪化
- ・生産：銅は前年度並みにとどまるが、  
金、亜鉛、PGMなどは総じて増産
- ・持分法適用関連会社である海外鉱山の  
収益は向上

# 製錬② 中期計画における主要施策の進捗状況



# 製錬③ PGM回収事業の拡大

2020年度は堅調な需要により1,000t/月を越える集荷・処理量を達成

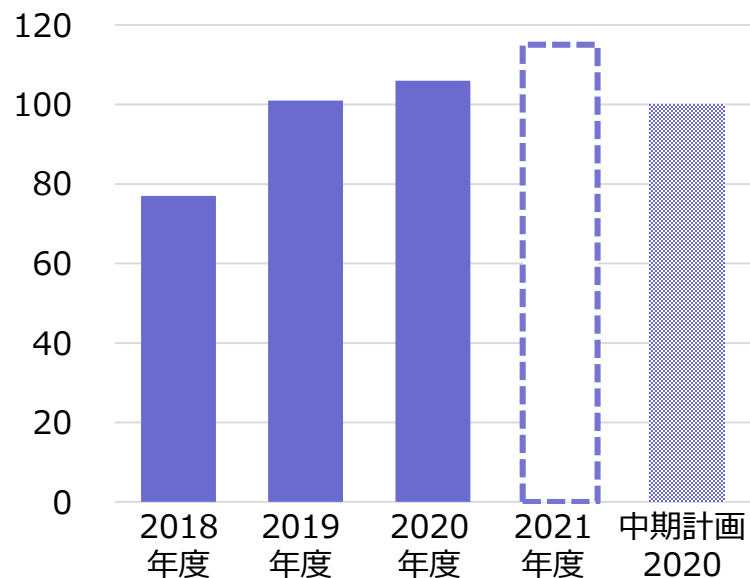
→ 今後も高水準の集荷・処理量を維持する

- ・海外集荷拠点の強化と拡充  
(強化：米国、拡充：スペイン・韓国)
- ・サンプリング工程の生産性向上
- ・難処理原料の増処理



海外サンプリング拠点

PGM回収事業の処理量推移  
(中期計画2020 = 100)



PGM処理工場

## 製錬④ 亜鉛事業の取り組み

様々な亜鉛原料への対応力を向上させる施策を実施

- ・ロス・ガトス鉱山：秋田製錬向け精鉱の年間フル生産を実施、収益安定化を目指す
- ・秋田製錬：不純物除去能力のさらなる増強に着手、2021年度下期に完工予定  
→ 不純物量が多い亜鉛精鉱の処理能力を高め、安定生産に寄与
- ・2次原料処理能力の増強を完了し、2020年8月に稼働を開始
- ・タイ亜鉛加工：自動車向け溶融亜鉛めっき需要が回復し、堅調な販売を期待  
→ 増産投資について検討を再開



ロス・ガトス鉱山の鉱石粉砕設備



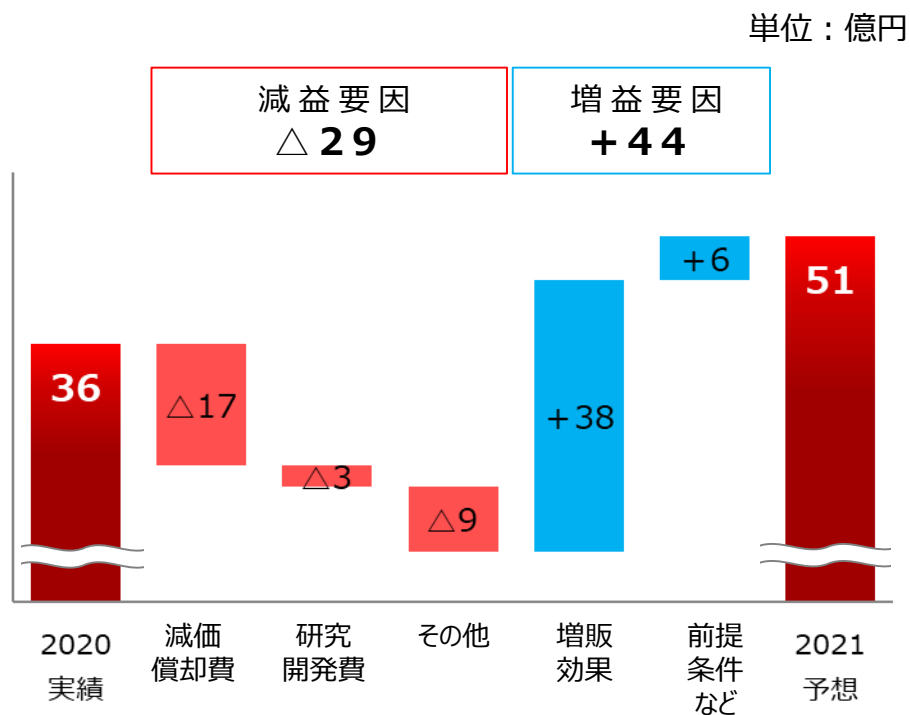
タイの亜鉛加工拠点

# 電子材料① 事業概況

## 事業環境（2021年度）

- ・スマートフォンの販売台数は回復・伸長、近接センサは新方式が主流に
- ・太陽光パネルの設置量は今後も増加、新型パネル比率はさらに高まる見通し

## 経常利益（前年比）



## 《主要製品の数量動向》

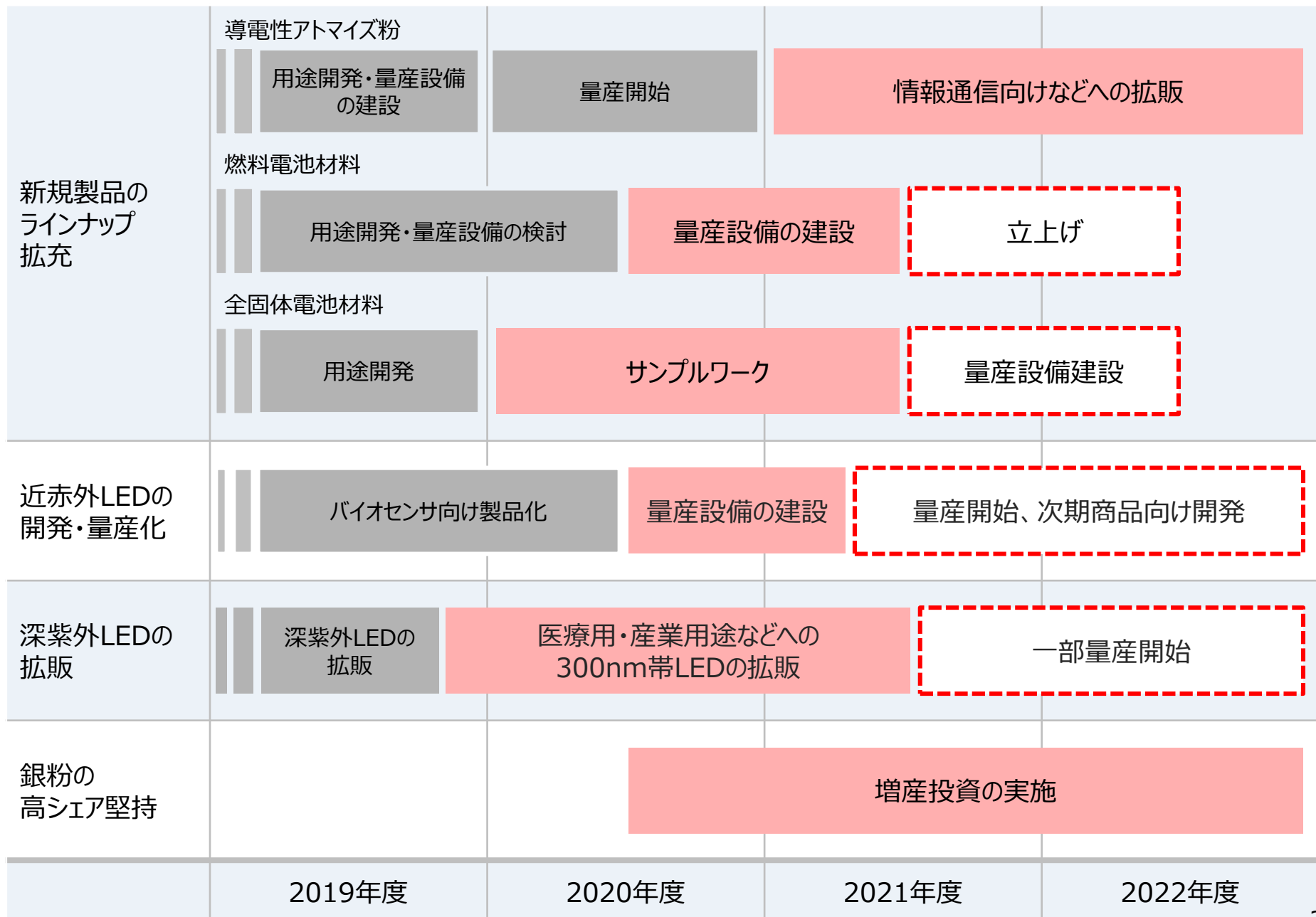
(2020年度上期 = 100)

	2020年度		2021年度	
	上期	下期	上期	下期
LED販売量	100	96	<b>139</b>	<b>181</b>
銀粉販売量	100	105	<b>109</b>	<b>109</b>
新規製品収入 (サンプル代金など)	100	76	<b>86</b>	<b>111</b>

## 2021年度の概要

- ・近赤外LEDの量産販売開始により、LED販売量および減価償却費が増加
- ・銀粉は新型パネル向けの販売が堅調
- ・新規製品は燃料電池、深紫外LEDのサンプル収入が増加するとともに量産準備による研究開発費が増加

# 電子材料② 中期計画における主要施策の進捗状況



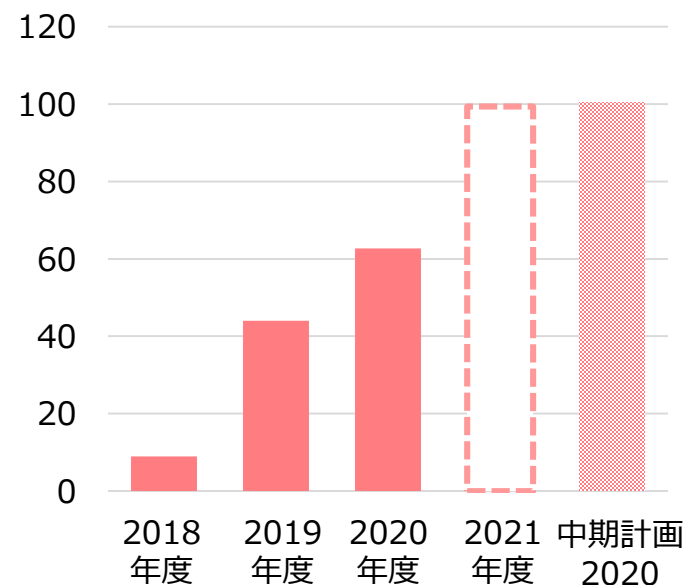


# 電子材料③ 自動車、情報通信、医療・ヘルスケア分野への展開

## ■ 導電性アトマイズ粉

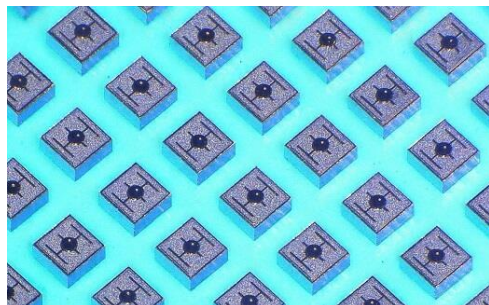
MLCC向けに2019年4月から量産販売を開始  
車載・情報通信向け需要の増加に伴い受注が拡大  
→ 情報通信向け回路基板や電子部品などへの  
    **拡販を進め、収益の安定化を目指す**

導電性アトマイズ粉の販売量推移  
(中期計画2020 = 100)



## ■ 近赤外LED

バイオセンサを搭載したウェアラブル機器への採用に向け  
開発推進と量産設備を建設・立ち上げ  
→ **2021年度上期中に量産販売を開始**



近赤外LEDチップ



スマートウォッチ



ワイヤレスイヤホン



スマートグラス

搭載が想定されるウェアラブル機器

# 電子材料④ 新エネルギー分野への展開

## ■ 銀粉

各国の新エネルギー政策により、太陽光パネル需要は旺盛

→ 高効率化のための配線細線化需要に対応した  
銀粉の開発を推進

→ 増産投資を段階的に実施し、供給能力を拡大

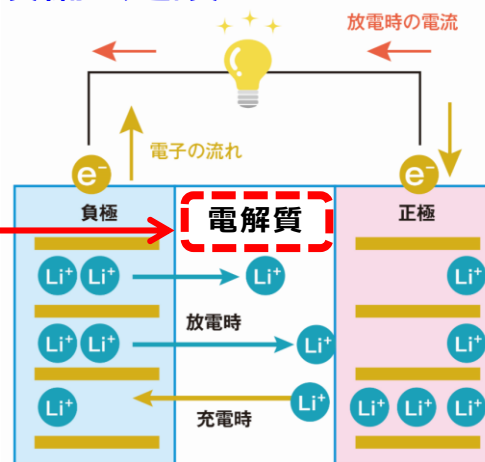
## ■ 全固体電池用材料

情報通信端末向け全固体電池用の固体電解質粉末（LAGP※）を開発、ユーザー評価中

→ 量産化を見据えて、2021年度に製造設備を建設

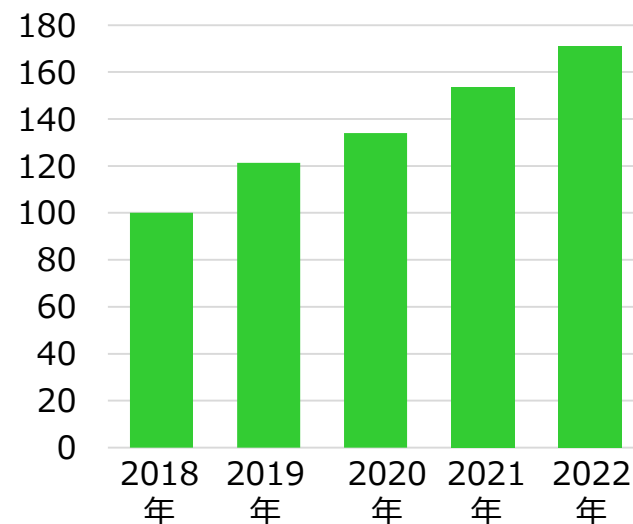


開発中の固体電解質粉末



全固体電池の構造

太陽光パネルの世界設置量  
(2018年 = 100) ※当社調べ



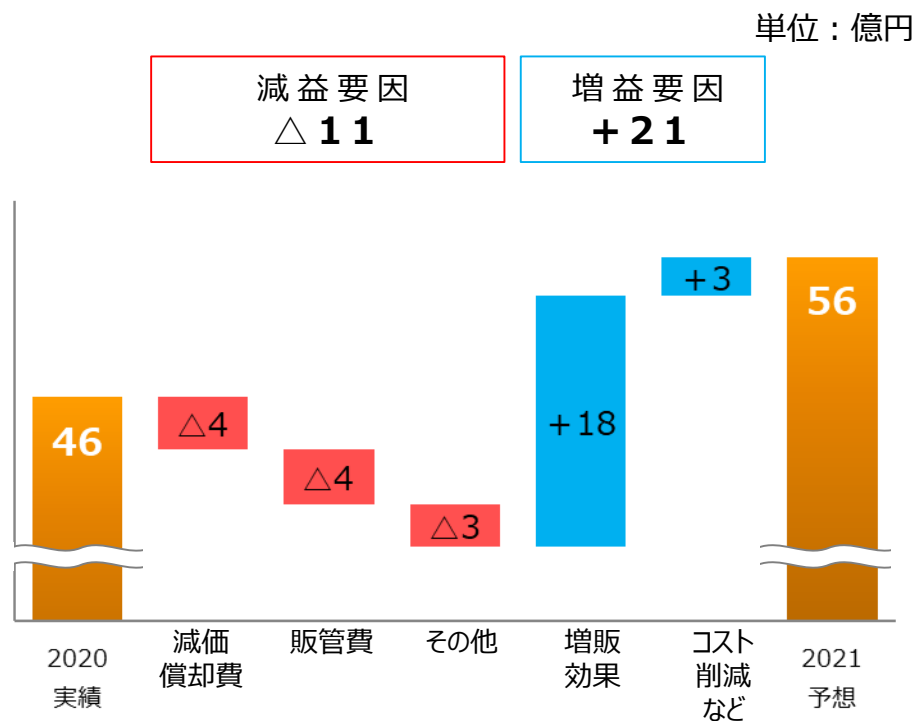
※LAGP : アルミニウム置換  
リン酸ゲルマニウム  
リチウム  
 $\text{Li}_{1.5}\text{Al}_{0.5}\text{Ge}_{1.5}(\text{PO}_4)_3$

# 金属加工① 事業概況

## 事業環境（2021年度）

- ・自動車は電動化・知能化が進展
- ・情報通信機器は多機能化・高速通信化
- ・サーバー・基地局の増加により、主要製品の需要は拡大

## 経常利益（前年比）



## 《主要製品の数量動向》

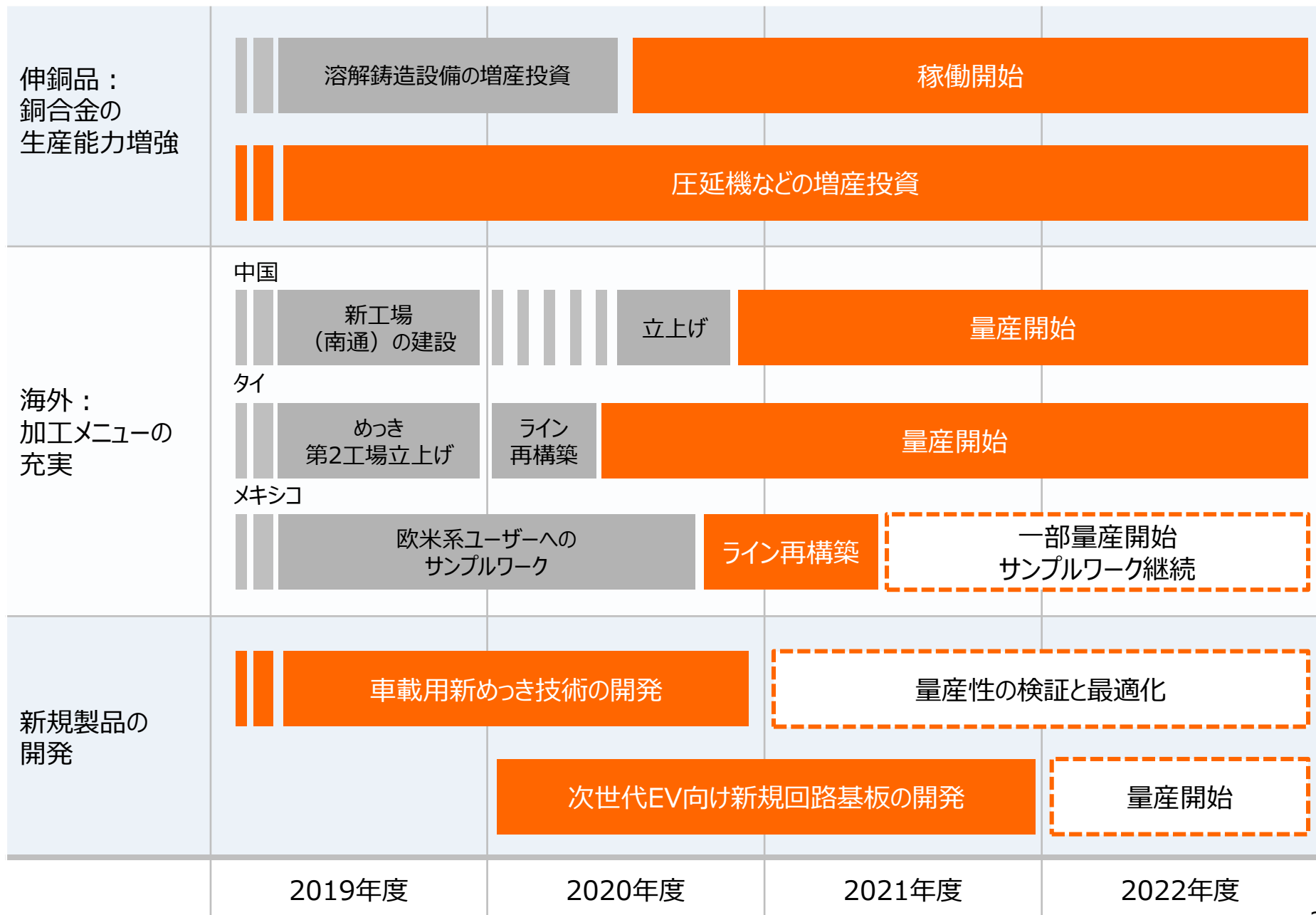
(2020年度上期 = 100)

	2020年度		2021年度	
	上期	下期	上期	下期
伸銅品販売量 (自動車向け)	100	151	<b>141</b>	<b>147</b>
伸銅品販売量 (情報通信機器向け)	100	113	<b>108</b>	<b>113</b>

## 2021年度の概要

- ・自動車向け伸銅品や貴金属めっきの需要が回復
- ・金属-セラミックス基板は電鉄向けが低調
- ・中長期で拡大する需要へ対応するため、国内の主要生産拠点で設備増強を継続

# 金属加工② 中期計画における主要施策の進捗状況



# 金属加工③ 中長期的な市場拡大を見据えた取り組み

## 伸銅品

国内：高機能銅合金の増産投資を実施

- ・溶解鑄造設備が稼働を開始
- ・新圧延機は2022年度の立ち上げに向け建設中  
→ 伸銅品の薄板化需要の増加に対応

中国：南通市に2拠点目となる、すずめっき工場の稼働開始  
スリッター加工とめっき加工ができ、輸出加工区外に立地  
→ 中国ローカル自動車向け需要を取り込む



中国新工場（同和南通）

## めっき

日本、タイ、メキシコ各地域で変化する需要に応じて、めっきラインを増強・再構築

国内：EV向け端子用めっきの需要拡大に応じてめっきラインを拡充

タイ：車載ターミナル用めっきの現地主要顧客向け拡販

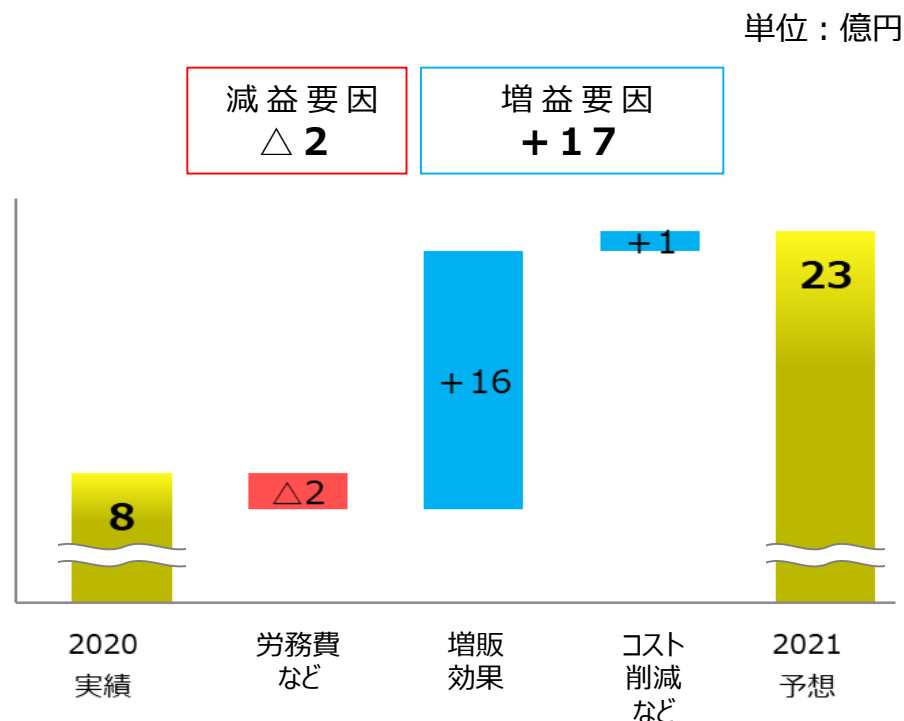
メキシコ：車載ターミナル用めっきのローカル市場向け新規需要を獲得

# 熱処理① 事業概況

## 事業環境（2021年度）

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により低調化していた自動車の生産台数は、国内、海外ともに回復基調

## 経常利益（前年比）



## 《主要製品の数量動向》

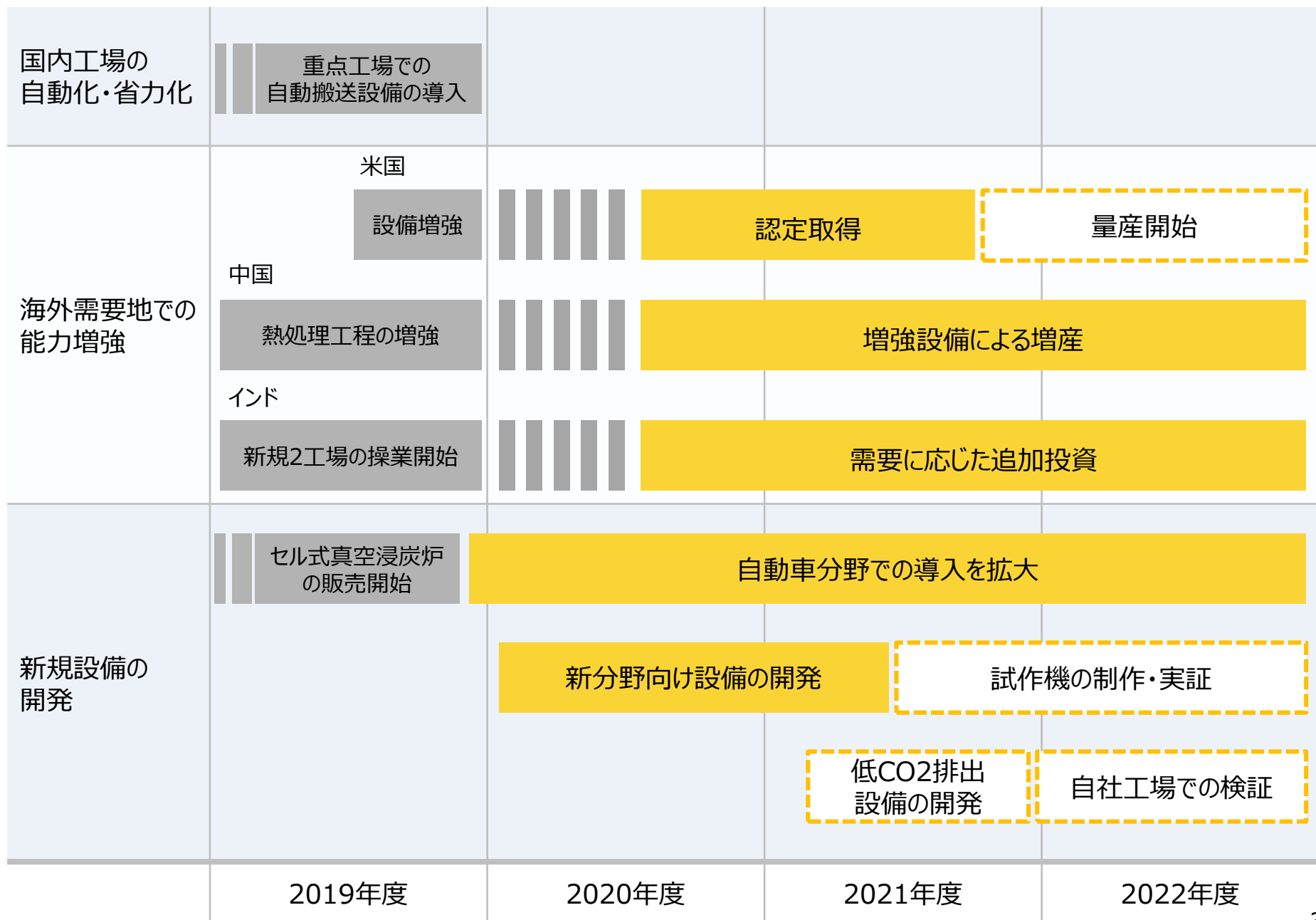
(2020年度上期 = 100)

	2020年度		2021年度	
	上期	下期	上期	下期
熱処理加工売上高	100	154	<b>145</b>	<b>156</b>
工業炉売上高	100	109	<b>86</b>	<b>173</b>

## 2021年度の概要

- ・国内外の自動車生産台数の回復に同期し、熱処理加工を中心に需要が増加
- ・2020年度のコスト削減効果を維持しながら、増加する需要へ対応

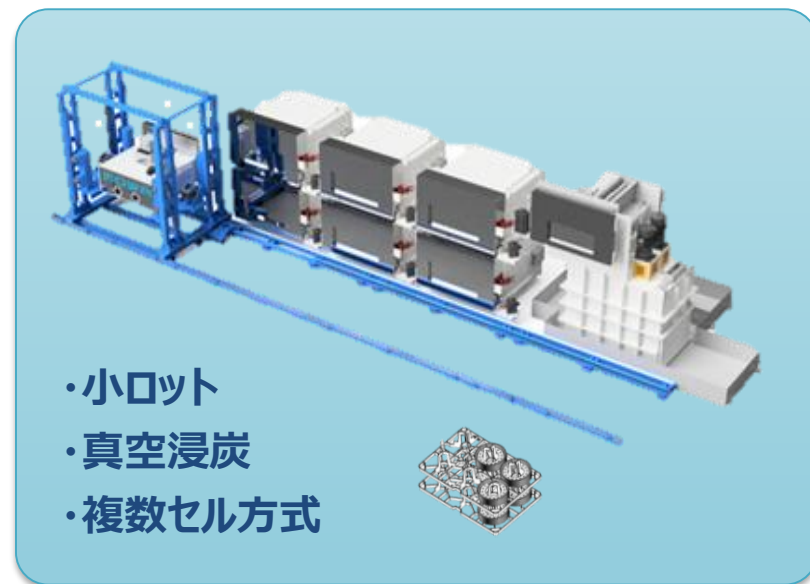
# 熱処理② 中期計画における主要施策の進捗状況



# 熱処理③ 脱炭素社会の実現に向けた需要の変化

## ■ 自動車メーカーはCO2排出量の削減を加速

- ① EV/HV/PHVの生産比率が上昇
  - EVは部品点数が減少するものの、自動車の生産台数の増加に伴い、熱処理需要は拡大
- ② 自動車メーカーは、保有する熱処理ラインのCO2排出量を低減するため、投資計画を見直し
  - 低CO2排出な熱処理設備のニーズが拡大



低CO2排出を実現したSS真空浸炭炉

### 【熱処理】

- ・グローバルな生産体制や販売チャネルを活かし、受注増を図る

### 【工業炉】

- ・熱処理ラインのCO2排出量の削減に寄与する浸炭設備の開発・拡販を推進

**ソフトとハードの両事業を有する強みを最大限に発揮し、変化する需要を獲得**



# DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。